様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年　６　月　８　日現在

機関番号：12611
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008　～　2010
課題番号：20520118
研究課題名（和文）　日本の創作バレエ作家に関するドキュメンテーションとアーカイブ化ー佐多達枝を中心に
研究課題名（英文）　Developing a Digital Archive of the Works of Tatsue Sata, a Leading Creator of Japanese Modern Ballet

研究代表者　　中村　美奈子（NAKAMURA　MINAKO）
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・准教授
研究者番号：20345408

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本を代表する創作バレエ作家（振付家）の一人である佐多達枝の作品と関連資料（舞踊譜等）について、再演を目的としたドキュメンテーションおよびアーカイブ化を行い、そのアーカイブ化の過程を論文として、イリノイ大学（米国）のサイト上に公開されている電子ジャーナル「身体運動の人類学的研究」(JASHM)に投稿し、日本の創作バレエ史における佐多氏の功績を海外に発表した。

研究成果の概要（英文）：Our purpose of this research is to document the works and related materials of Tatsue Sata, one of the leading Japanese choreographers. We have developed the digital archive of her contributions to Japanese modern ballet to reserve and publicize them. We contributed to the web journal, the journal for the Anthropological Study of Human Movement, and published abroad her achievements in Japanese modern ballet.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：総合領域
科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・身体教育学
キーワード：身体運動文化論、日本近代創作バレエ、舞踊譜

１．研究開始当初の背景

現代の日本ではバレエが空前のブームとなっており，世界的に認められた実力のある日本人舞踊家が数多く輩出している。しかし，その一方で日本のバレエ作家（振付家）の存在は，実力もあり，舞踊評論家や舞踊家からは評価が高いにもかかわらず，一般にはあまり知られていないのが現状である。

ダンス・ドキュメンテーション，ダンス・アーカイブの研究はアメリカでは９０年代から始まり，Dance Archives ：a Practical Manual for Documenting and Preserving the Ephemeral Art, 1995 といった初学者の為のマニュアルまで出版されるにいたっている。

日本では近年の情報化，学際・学融合といった路線を中心にダンスが注目をされ，その過程で多様な資料体としてのダンス・アーカイブにも関心が集まっている。主要な研究成果としては，慶応大学アートセンターが所蔵する土方巽アーカイブをあげることが出来る。またダンス・ドキュメンテーションの例としては現代舞踊協会による日下四郎編による「日本の現代舞踊の流れ」を上げることが出来る。

しかし，土方巽アーカイブは，「日本文学（前衛文学者ら）」との交流という視点で静的なデータを整理しただけであり，映像もな

く，舞踊のアーカイブのプロトタイプというのは難しい。日本の新国立劇場には，国立のバレエ団があるが，まだ作品のアーカイブ化は行われていない。

外国の例では，アメリカ合衆国のアメリカンバレエシアターの振り付け家バランシンの作品アーカイブが有名であるが，それは，作品のビデオ映像と舞踊譜 Labanotation の二つから成っているが，バランシンのアーカイブは，作品の保存という点では十分考慮されているが，再演という点はあまり考慮されていない。(Labanotation（ラバノーテーション）とは，ルドルフ・ラバンによって 20 世紀半ばに開発された精緻な舞踊記譜法であり，これによって記録された舞踊には，音楽の楽譜のように著作権が認められている。）本研究では，「作品の創作過程」に焦点を当てた動的なアーカイブを構築することを目指しており，その点において，大変ユニークな試みであるといえる。

２．研究の目的

本研究は日本を代表する創作バレエ作家（振付家）の一人として佐多達枝を取り上げ，佐多氏本人の協力の下に，その作品と関連資料の，再演を目的としたドキュメンテーション（舞踊記譜法による記述を含む）を行いアーカイブ化し，海外に向けて発信していくことを目的とする。また，その過程を通じて，これまで日本で試みられていない日本人近現代の創作バレエの作家に関するアーカイブの基盤を構築，日本の近代創作バレエの特質についても考察を行う。

３．研究の方法

（１）平成 19 年 7 月にすでに映像記録を作成済みである短編の代表作品「ソネット」をアーカイブ化する事例として扱い，100 時間におよぶリハーサル映像の整理や Labanotation による採譜。

（２）平成 20 年度再演された，長編の代表作「庭園」，映像記録を作成するとともに，佐多氏による舞踊譜「佐多ノート」のような紙媒体の資料の電子化およびそれらの整理。

（いずれも、佐多達枝氏および舞踊評論家門行人の協力のもとに行った。）

（３）舞踊アーカイブ制作に関する海外の動向を資料収集し、また海外の学会において佐多に関する研究発表を行う。

４．研究成果

（１）佐多達枝氏について

佐多達枝氏は，1932 年に東京に生まれ，現在 76 歳の現役の振付家である。高田せい子，エリアナ・パブロバ，東勇作らに師事し，バレエダンサーとしての経歴を積んでいく。1954 年，青年バレエグループ結成に参加し，1974 年，東京バレエセンター設立に参加。1981 年には，文化庁在外特別研修生としてヨーロッパ・アメリカで研修を行う。現在は，日本バレエ協会会員，埼玉県舞踊協会役員，佐多達枝・河内昭和バレエスタジオを主宰している。

1954 年頃から創作活動を始め，自らのプロデュース作品のほか，劇団四季等のミュージカルの振付なども手がけている。自身の代表作としては，「満月の夜」，「カルミナ･ブラーナ」，「父への手紙」，「beach」，「ソネット」，「庭園」などがある。2009 年 7 月 4 日と 5 日には，オルフ祝祭合唱団からの委嘱作品として演出と振付を担当した合唱舞踊劇「ヨハネ受難曲」が，すみだトリフォニー 大ホール（JR 錦糸町駅）において公開された。

振付家としての評価は，舞踊批評家協会賞を 1983 年度，1989 年度，1993 年度，2006 年度と複数回受賞するほか，いくつかの主要な賞を受賞しており，舞踊界においても評価が高い。また，1996 年に紫綬褒章受章，2005 年に旭日小綬章受章を受賞している。

（２）短編作品『ソネット』の「佐多ノート」を元にした分析

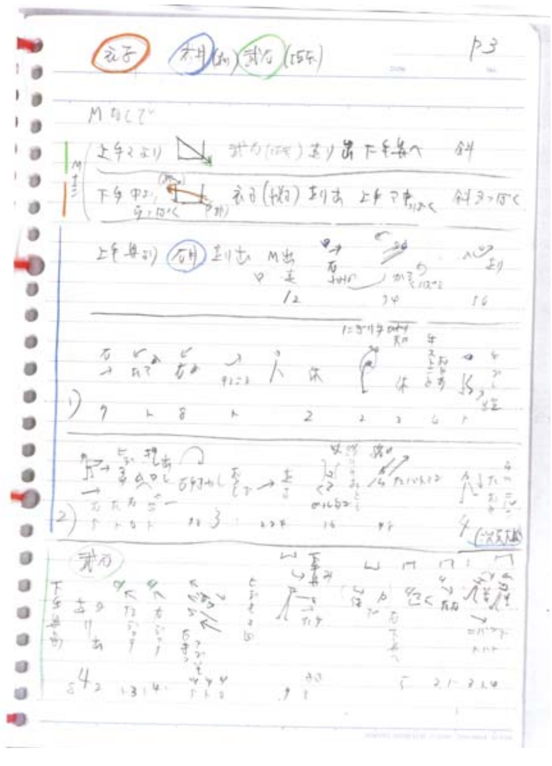

図1 ソネットの佐多ノート3ページ目

本研究では，佐多達枝の代表的作品でありかつ比較的最近の作品として，短編作品『ソネット』(2005 年初演，2007 年再演）と長編作品『庭園』(2008 年再演）をとりあげ，資料の作成と収集を行った。『庭園』は上演時

間が１時間を越える長編であり，10 分前後の複数のシーン（小作品）によって構成されている。本研究では，研究期間の制約もあることから，『庭園』についてはその中の 1 シーンである『埋葬』を主たる分析対象としてとりあげ，資料収集を行った。収集したデータは，佐多氏自身による舞踊の振付ノート，100 時間におよぶリハーサル映像，佐多氏自身および舞踊家へのインタビュー，『埋葬』については，台本等である。

本報告では，『ソネット』の振付創作ノート（本研究では「佐多ノート」とよぶ）をテキストベースで整理して分析を行った際の方法論および成果について述べたい。

原資料タイプとしては，図１に示す「佐多ノート」の手書き資料及び図２に示すビデオの画像とビデオとの二つがある。しかし，手書き資料は，一般の手書き資料の場合と同様に，判読が困難であり，このままでは，より深い鑑賞や再演や研究は，難しい。

こうしたことから，今回のアーカイブ構築では，まず，手書き資料の分析及びテキスト化を行った。

図２ ソネットの１場面
撮影:谷岡秀昌

佐多ノートは，手書きの振り付け資料であることから，文字により指示とイラストをもとにした振り付け指示の二つの部分からなっている。また，作家本人もメモであるため，第三者に理解して貰おうとするものではなく，作家本人だけが理解できればよい，との観点からのメモである。

図３に佐多ノートの直接的なテキスト化を示す。このテキスト化では，佐多ノートの記述に忠実にテキスト化を行い，イラスト部分については，画像のまま残した。ソネットのような現代バレエは，複数のダンサーによって演じられる。再演のためには，図３の表現ではなく，各ダンサーごとの演技指導の側面を明確化する必要がある。このことから，ダンサーごとの演技を考慮し，図４のテキスト化を行った。

（３）今後の課題

この論考では，佐多ノートのテキスト化を中心にパフォーミングアートのアーカイブ化の具体的な問題を検討した。しかし，舞踊研究では，もう一つ重要な側面がある。それは，舞踊動作そのものの記述である。前述にように，舞踊の記述には，Labanotation をはじめとする舞踊譜があり，この舞踊譜を取り入れることによって，すなわち，創作ノートの“テキスト化”と舞踊譜の両方が揃うことによって，アーカイブが完成する。

図３ ソネットのテキスト化１

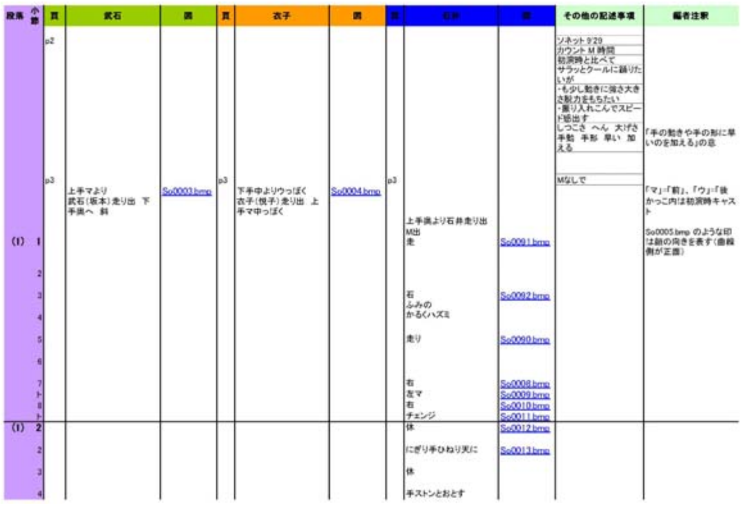

図４ ソネットのテキスト化２(ダンサー別に色分け)

スキャンした画像とデジタルビデオだけからなる一次情報だけでも，一応アーカイブといえるかもしれない。しかし，文字情報であっても，ファクシミリ版だけでは，一部研究者以外に利用は難しく，一般の利用者を想定すると，テキストが必要となる。文字情報のテキスト化においても，OCR での自動認識には多くの問題があり，人が読むことによって，他の人が読める情報を提供することがはじめて可能となる。

この意味で，アーカイブ化とは，できる限り正しく"読む"行為を通じてはじめて実現可能なものであろう。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

①Minako Nakamura, Yukito Kado, and Kohji Shibano, Developing a Digital Archive of the Works of Tatsue Sata, a Leading Creator of Japanese Modern Ballet;_*Journal for the Anthropological Study of Human Movement (JASHM)* ,Vol.16,No.1& No.2.
（電子ジャーナル、査読有）

〔学会発表〕（計３件）

①NAKAMURA Minako, SHIBANO Kohji, KADO Yukito,"Developing a Digital Archive of the Works of Ms. Tastue Sata, a leading Japanese creator of Modern Ballet", An International Conference : Body, Movement and Dance in Global Perspective, July2008,Hong Kong Baptist University,Chaina

②中村美奈子，門　行人，「創作バレエ作家佐多達枝の創作過程のドキュメンテーションとアーカイブ化」，アート・ドキュメンテーション学会 年次大会，2009 年 6 月，立命館大学（京都）

③Minako Nakamura and Kohji Shibano, "The Digital Archive of the Works of Ms. Tastue Sata, a leading Japanese creator of Modern Ballet", The 26th Biennial Conference of International Council of Kinetography Laban/Labanotation (ICKL), Aug.2009, Suan Sunandha Rajabhat University, Bangkok, Thailand

〔その他〕
ホームページ
http://jashm.press.illinois.edu/16.1_2/index.html
（JASHM 電子ジャーナル掲載ページ）

６．研究組織

(1)研究代表者
中村　美奈子（NAKAMURA　MINAKO）
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・准教授
研究者番号：20345408

(2)研究分担者
芝野　耕司（SHIBANO KOHJI）
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授
研究者番号：50216024

(3) 研究協力者
佐多　達枝（SATA TATSUE）
振付家、佐多達枝・河内昭和バレエスタジオ主催
門　行人（KADO YUKITO）
舞踊評論家